

「飯田市次期総合計画」の策定状況について

平成 2 7 年 8 月

飯田市総合政策部企画課

— 目 次 —

1	はじめに	2
2	前回の「飯田市次期総合計画策定の進め方について」から	2
	(1) 次期総合計画の概要	
	(2) 全体の日程表	
3	地区別懇談会の取組状況	5
	(1) 目的	
	(2) 地区別懇談会の取組内容	
	(3) 取組の状況	
4	分野別懇談会の取組状況	8
	(1) 目的	
	(2) 分野別懇談会の取組内容	
	(3) 取組の状況	
5	未来デザイン会議（市民会議）の進め方について	10
	(1) 目的	
	(2) 各ビジョン、基本的方向の策定	
	(3) 未来デザイン会議の概要	
	(4) 平成27年度のスケジュール	
	(5) 検討の具体的なイメージ	
	(6) 未来デザイン会議の構成及び外部アドバイザーの委嘱	
6	飯田市版総合戦略の策定について	16
	(1) 目的	
	(2) 分野別検討の取組内容	
	(3) 取組の状況	
	参考資料	20

1 はじめに

飯田市の次期総合計画については、平成27年5月に「飯田市次期総合計画策定の進め方について（地方創生の動きも視野に入れて）」（以下「策定の進め方」といいます。）を公表しました。

これをもとに、5月から7月までの間、20地区の市政懇談会において、飯田市の人口動向や地域の将来の課題などを認識し、検討の取組を進める上での意識の共有を図ってきました。

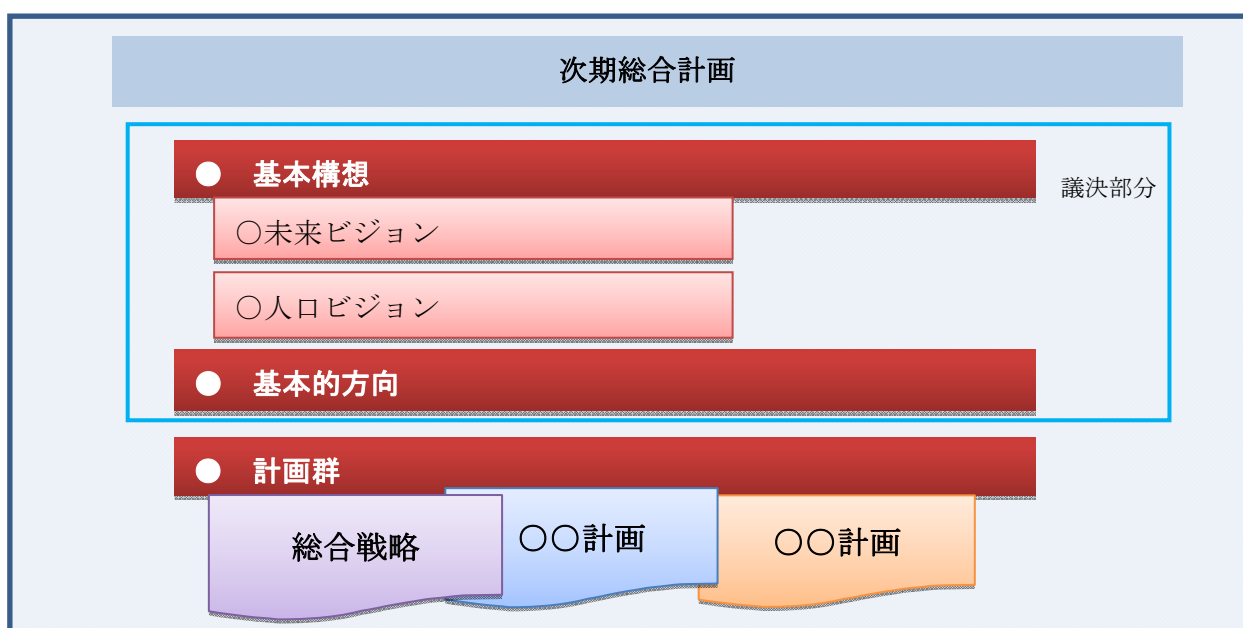
策定の進め方では、「未来からの発想法」による計画策定、「ビジョン」を要とする計画策定、未来を描く「共創の場」による計画策定を掲げています。具体的には、「地区」や「分野」ごとの議論の積重ねが地域づくりの原動力となり、「現場」から出される発想が人口減少社会を乗り越えていく取組の原点となると考えています。

現在、これらの計画策定の方針に従い、具体的な検討に取り組んでいます。検討に関わる多様な主体の皆さんから柔軟かつ効果的な発想や提案をいただきながら、今後とも、地域の総合力で取り組む「計画づくり」となるよう進めていきます。

2 前回の「飯田市次期総合計画策定の進め方について」から

(1) 次期総合計画の概要

次期総合計画は、平成27年度から28年度にかけて策定作業を行い、平成29年度（2017年度）から平成40年度（2028年度）までの12年間を計画期間として検討を進めます。



● 基本構想

基本構想は、未来ビジョン、人口ビジョンで構成されます。

○ 未来ビジョン

大目標として実現したい「地域・暮らし」の将来像であって、約30年先を見据えた中の12年後（平成40年度／2028年度末まで）の到達可能な努力目標とします。

○ 人口ビジョン

未来ビジョンを支える人口規模であり、12年後（2028年度末）までの目標定住人口数を軸に交流人口を含めた人口の将来展望とします。

● 基本的方向

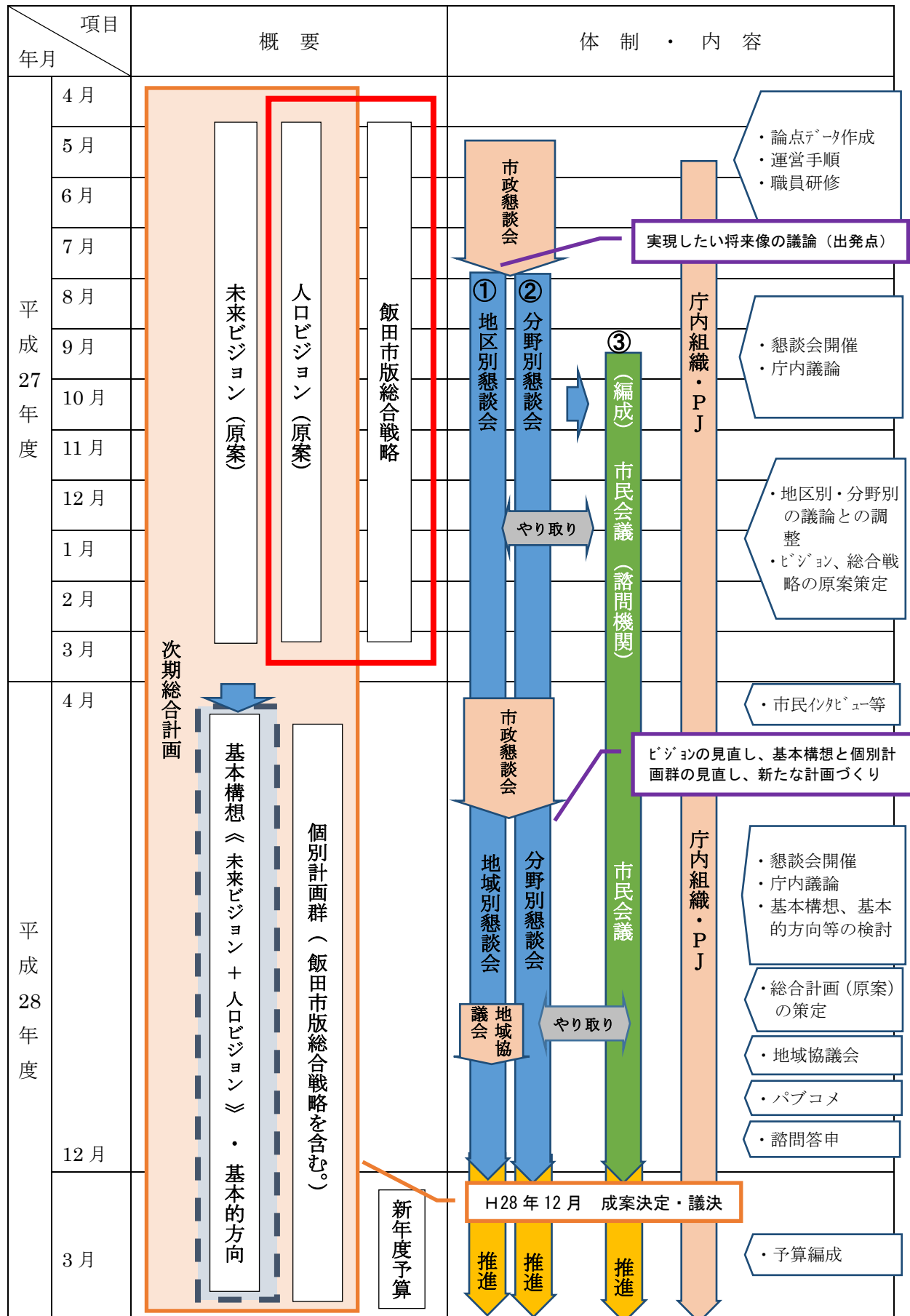
ビジョン実現に向けた戦略であって、ビジョン実現までの道筋とします。

● 計画群

未来ビジョン、人口ビジョンを実現するための具体的な各個別計画であり、具体的な分野ごとに関連する多様な主体との協働、共創を進めながら、計画に基づく事業展開を図ります。

※ 国の求める地方版総合戦略については、次期総合計画のなかで、平成31年度までに人口減少と地域経済縮小の克服に向けて重点的に取り組む事業を戦略に組み立てたものと位置付けます。

(2) 全体の日程表



3 地区別懇談会の取組状況 【全体の日程表①】

(1) 目的

人口減少が与える影響、人口流動化時代における可能性を地区ごとに分析、認識したうえで、地区が実現したい将来像を共有し、その実現に向けて地域全体で取り組む「行動計画づくり」を進めます。

(2) 地区別懇談会の取組内容

ア 検討の方法

(ア) 第1段階（10月末まで）

実現したい地域の姿と、それを実現するための戦略（道筋）を描きます。懇談会での検討の内容を中間報告としてまとめ、未来デザイン会議に示します。

I 人口変動による影響

人口変動の各地区への影響はどのようなことが予想されるか

地区基本構想の実現に向けて、人口変動による影響はどのようなものが考えられるか
(子どもの学び、安心して働ける環境、高齢者の暮らし、商店街の賑わい、空き家の状況、地域の活動)

- 例 ① 子どもの学びがどう変わるか（小中学校の生徒数等）
② 高齢者の暮らしがどう変わるか（独居、要介護の高齢者の数等）
③ 地域の活動の姿はどう変わるか（人口、年齢構成から見える地域活動を支える人の数）

II-1 地区未来ビジョン

I の状況を踏まえながら、実現したい地域の暮らしの姿はどのようなものか
(地区基本構想の再共有・見直し)

- 例 ① 地域の子どもたちが、同世代の多くの子どもと学び合う未来を実現したい
② 高齢者が不便無くいきいきと暮らせる地域を実現したい
③ 地域の伝統行事を守りたい

II-2 地区目標人口

地区の未来ビジョンを実現する人口規模はどのようなものか

- 例 ① 30年後に生徒〇人の学校規模を保つための人口は
② 一人の高齢者を〇人で支えるために必要な人口規模と人口構成は
③ 地域の伝統行事を守るために必要な人口規模は（交流人口の視点を踏まえて）

III 未来ビジョンを実現する戦略(道筋)

未来ビジョンの実現に向けた地域の取組みの戦略（道筋）

30年後の理想的な「働く・関わる」「学ぶ・育てる」「住む・交わる」「老いる・直す」「つくる・残す」を実現するための方向性

- 例**
- ① 子育てがしやすい地域を目指す
 - ② 高齢者（要介護・認知症・独居）の生活を地域で支える
 - ③ 地域間の交流を深めながら地域の伝統行事を守っていく

(イ) 第2段階（11月～1月下旬）

未来デザイン会議、他地区の地区別懇談会、政策分野別の検討の中間まとめ等の状況を踏まえ、未来ビジョンの実現に向けた戦略の磨き上げなど、地区の考え方をまとめていきます。

IV 未来ビジョンを実現するための計画

- 例**
- ①-1 地域で運営する放課後子ども教室
 - ①-2 自然に親しみながら子育てができる環境整備
 - ①-3 U・I ターンを地域で受け入れる体制作り（空き家活用、情報発信）
 - ②-1 地域で運営する独居高齢者への配食サービス
 - ②-2 高齢者が活躍できる地域の仕組み作り（遊休農地を活用した野菜作りと朝市）
 - ③-1 地域の伝統行事への地域外のボランティア参加の受入れ
 - ③-2 地域間の交流による地域活動の支え合いや情報交換

(ウ) 第3段階（2月～29年3月）

28年度は、未来ビジョンを実現する方策の具現化に向けた地域のムトス活動を生み出す1年間とし、年度末までに最終報告をまとめます。また、必要に応じて地区基本構想の見直しを行います。

イ 検討材料

「地区別人口予測プログラム」 【参考資料 21 ページから 24 ページ参照】

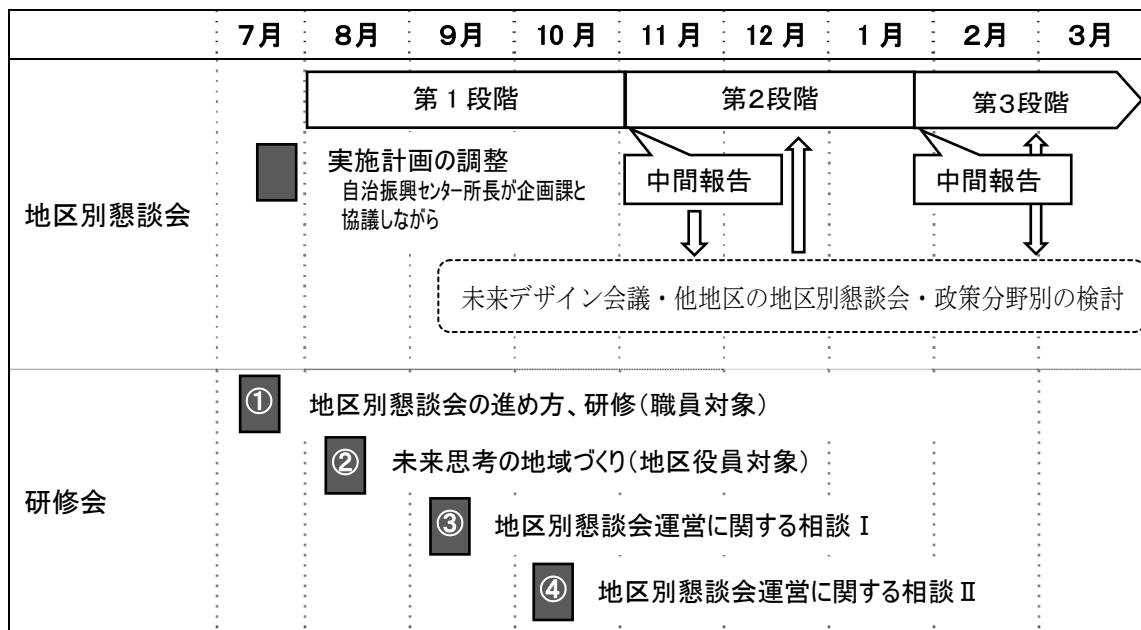
将来の人口変動が及ぼす変化を具体的にイメージするための地区ごとの分析資料

【説明】 地域の30年後までの人口予測とそれに伴う環境の変化を示すことができるプログラムです。

定住人口の増加が地域にどのような効果を与えるかをシミュレーションすることが可能です。

推計可能な数値：小中学生人口、労働者人口、世帯数、一人暮らし高齢者、認知症、要介護者、空き家の推計等

ウ 平成 27 年度のスケジュール



(3) 取組の状況

ア 地区別懇談会運営に関する研修等

- 7月14日～15日 ・地区別懇談会運営職員研修会（策定の進め方、地区別未来ビジョンの作り方）
対象：自治振興センター所長、センター職員、公民館主事ほか
- 7月30日 ・地域協議会会長会説明
- 7月下旬～ ・各地区説明（策定の進め方）
- 8月10日～11日 ・地区役員対象研修会（策定の進め方、未来志向の地域づくり）
講師 事業構想大学院大学 小塩准教授
- 8月25日 ・まちづくり委員会連絡会説明

イ 各地区における地区別懇談会の取組状況（8月20日現在）

- (ア) 既に開催し、検討を始めている地区・・・4地区
- (イ) 8月中に第1回目の開催を予定している地区・・・8地区
- (ウ) 9月以降から開催を予定している地区・・・8地区

4 分野別懇談会の取組状況 【全体の日程表②】

(1) 目的

飯田市では、政策分野ごとに、全国のモデルとなる取組が行われ、多くの成果を挙げています。改めて、これまでの取組を再評価し、分野別に取り組むべき課題・今後の方向性（有効策）などを検討します。

(2) 分野別懇談会の取組内容

ア 検討の方法

(ア) 第1段階（8月～10月）

a 第5次基本構想後期基本計画の振り返り

振り返りの進め方は、現在の行政評価システムの手法とし、施策マネジメントシートの様式を利用した第5次基本構想基本計画に係る平成24年度から平成27年度（事中含む。）の振り返りにより、成果や課題を確認し、今後の方向性（有効策）をまとめます。

b 政策・施策マネジメントによる検討と意見交換等（体制）

施策主管課と、分野別に関係する有識者等による意見交換、意見聴取等を行いながら、振り返りをまとめます。

なお、振り返りの過程で、分野別の有識者等の意見交換、意見聴取等の手法を取り入れますが、文字どおりの「懇談会」を開催したりするのではなく、これまでの実績の中で関係を構築した市民、企業、団体等との意見交換や議論を行える機会（共創の場）を設けることに主眼を置き、インタビューや個別ヒアリングなど柔軟な対応も懇談会の方法の一つとして進めます。

（分野別懇談会「第1段階」体系のイメージ）

政策・施策	主管課等	関係する有識者等
1-1 支え、育む産業基盤づくり	産業振興課	産業振興審議会、商工会議所
1-2	産業振興課	産業振興審議会、〇〇
.		〇〇〇、〇〇〇

c 9つの政策ごとに振り返りの集約

aによる42施策の評価から、さらに上位の9つの政策ごとに評価し、成果や課題等を調書にまとめます。

整理した成果物（調書）は、未来デザイン会議での検討の材料とします。

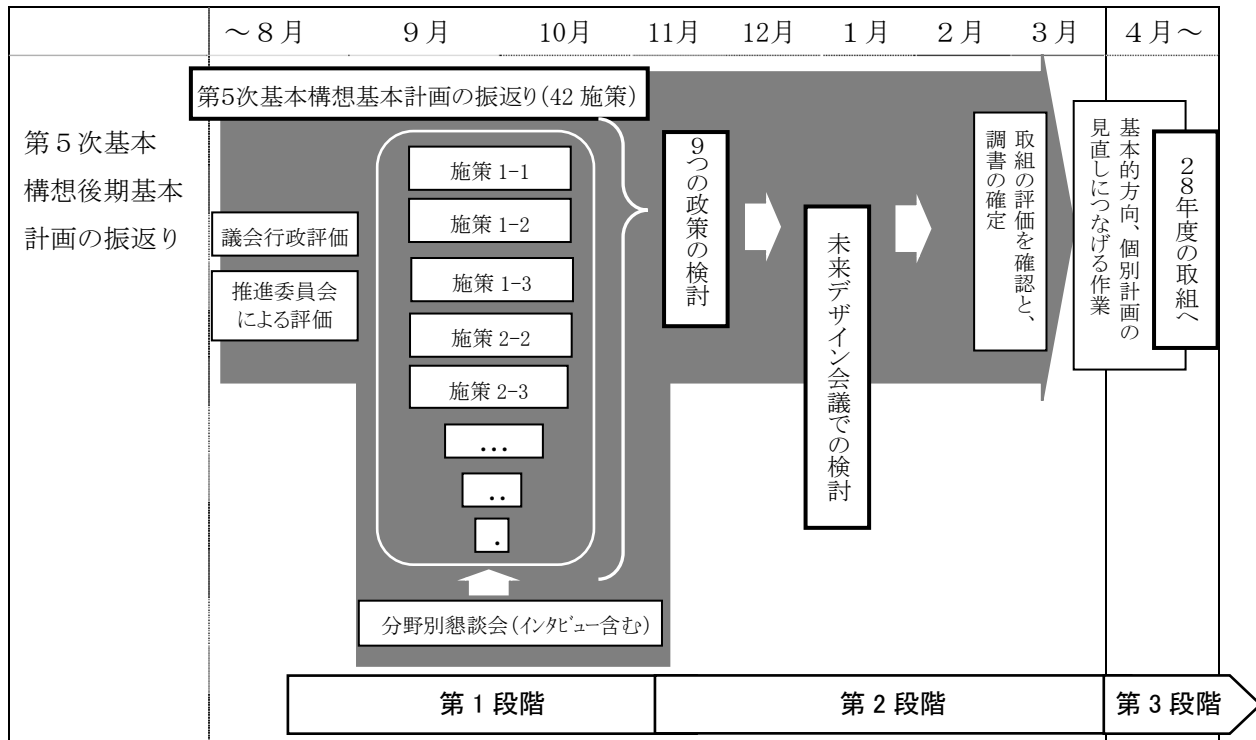
(イ) 第2段階（～3月）

未来デザイン会議での検討で出される外部視点での意見や提言等も踏まえ、第5次基本構想後期基本計画の取組の評価を確認し、調書を確定します。

(ウ) 第3段階（平成28年度～）

27年度までにまとめられた「未来ビジョン」（原案）、「人口ビジョン」（原案）の実現に向けて、「基本的方向」（原案）に沿って新たな計画づくりを進めます。また、既にある個別計画も改めて方針や内容を見直します。

イ 平成27年度のスケジュール



(3) 取組の状況

- | | |
|------|---|
| 7月下旬 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 政策分野別の検討に向けた調整 ・ 政策分野別の検討の運営について、関係部署を中心に計画 |
| 8月～ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 各分野の実情に応じた「懇談会（ヒアリングを含む。）」の開催 ・ 施策マネジメントシートの作成 |

5 未来デザイン会議（市民会議）の進め方について 【全体の日程表③】

(1) 目的

未来デザイン会議では、市民、分野別の専門家、有識者等のいわゆる産・官・学・金・労・言の皆さんと議論を行う機会（共創の場）をつくり、将来、地域を取り巻く環境変化に関する基本的な認識を「リニア時代を見据えた地域の未来」として整理するとともに、人口減少時代、人口流動化時代に備え、地区別・分野別懇談会での検討結果を踏まえ、外部視点と内部視点をやりとりしながら「未来ビジョン」、「人口ビジョン」、「基本的方向」と「飯田市版総合戦略」を策定します。

(2) 各ビジョン、基本的方向の策定

ア 未来ビジョン

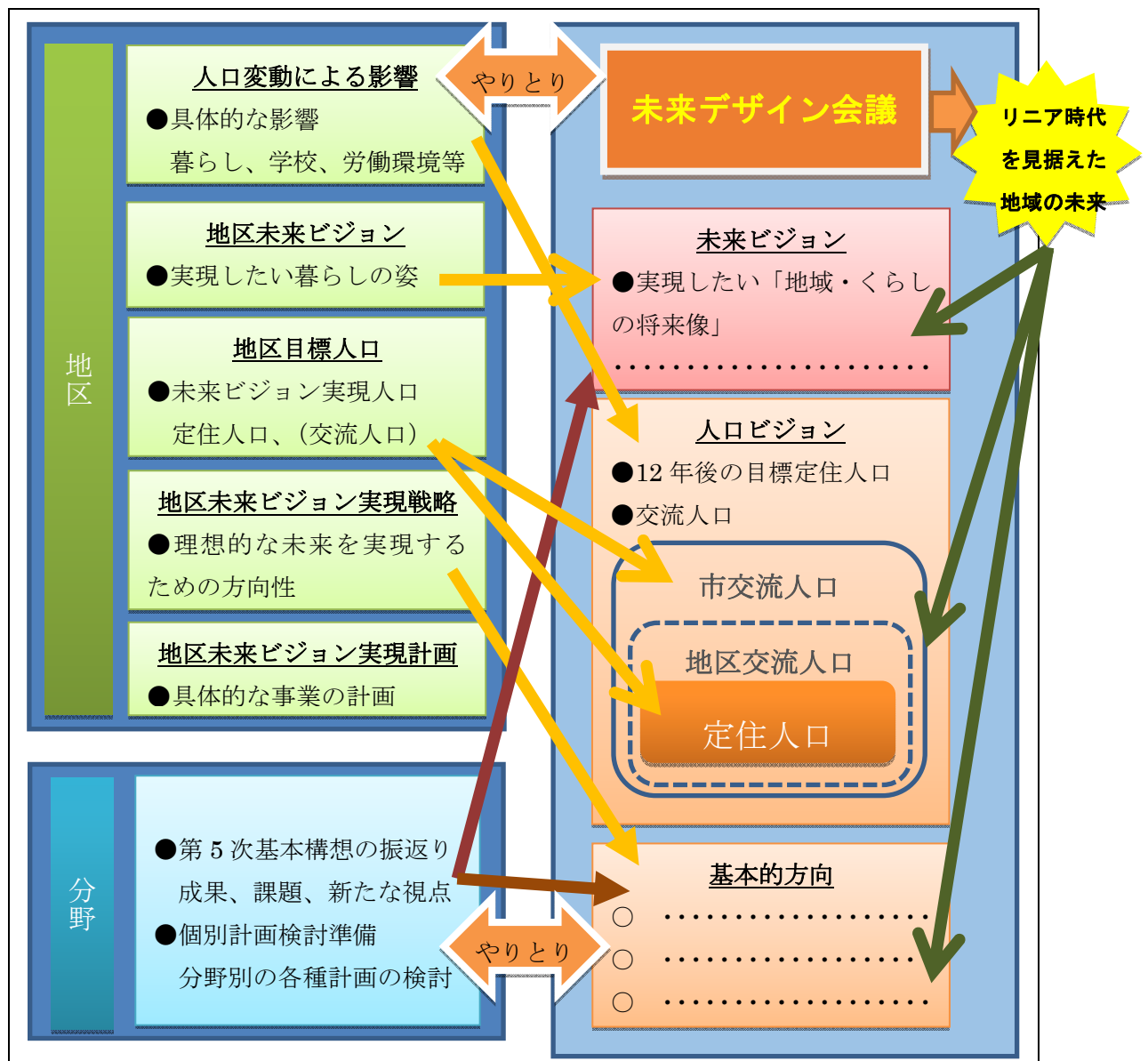
未来ビジョンは、地区別懇談会で検討される「地区未来ビジョン」や、未来デザイン会議における「リニア時代を見据えた地域の未来」をテーマとする外部アドバイザーからの提言を踏まえた議論により、大目標としての実現したい将来像にまとめ、さらに地区別懇談会や分野別懇談会とやりとりをしながら、27年度末までに原案を策定します。

イ 人口ビジョン

人口ビジョンに掲げる飯田市全体の目標定住人口は、地区別懇談会から報告された地区目標人口や、未来ビジョンの実現に向けた政策による全市的な効果を総合的に勘案して設定します。そのため、地区別懇談会における議論では、地区別人口予測プログラム等の資料を用いて、より具体的に地域の未来を共有できるように取り組みます。また、地区別懇談会や分野別懇談会の検討における交流人口に関する考え方、さらに未来デザイン会議の外部アドバイザーによる提言、各種調査結果などを踏まえ、交流人口の規模を想定し、定住人口と合わせた人口ビジョンを27年度末までに原案として策定します。

ウ 基本的方向

未来ビジョン、人口ビジョンを実現するための戦略（道筋）として、第5次基本構想後期基本計画の振り返りからの要素も参考にしつつ、理想とする未来をどのように実現するかを考える手法として「未来からの発想法」により道筋を具体的に考え、基本的方向にまとめていきます。



(3) 未来デザイン会議の概要

ア 第1段階（9月末～10月）

次期総合計画の計画最終年をリニア開通の翌年とすることから、「12年、30年後の世界、アジア、日本の動向」、「12年後の主人公となる世代の価値観、意識」はどのようなになっているかなど時代の風向きや潮の流れについて、外部環境や外から見た資源（地域の強み）なども含めて検討を行い、リニア将来ビジョンにある「小さな世界都市」や「多機能高付加価値都市圏」の方向性を勘案しながら、「リニア時代を見据えた地域の未来」の視点をまとめます。

イ 第2段階（11月～12月）

第1段階の「リニア時代を見据えた地域の未来」の視点とあわせて、地区別懇談会、分野別懇談会からの中間報告で示される、地区未来ビジョンや人口減少の課題認識、戦略や第5次基本構想後期基本計画の9政策の成果・課題等について議論するとともに、飯田市

全体の人口推計や人口構成の変化等の内的変化を再確認しながら、飯田市の理想的な未来について議論し、未来ビジョン（素案）、人口ビジョン（素案）、基本的方向（素案）にまとめます。

ウ 第3段階（12月～3月）

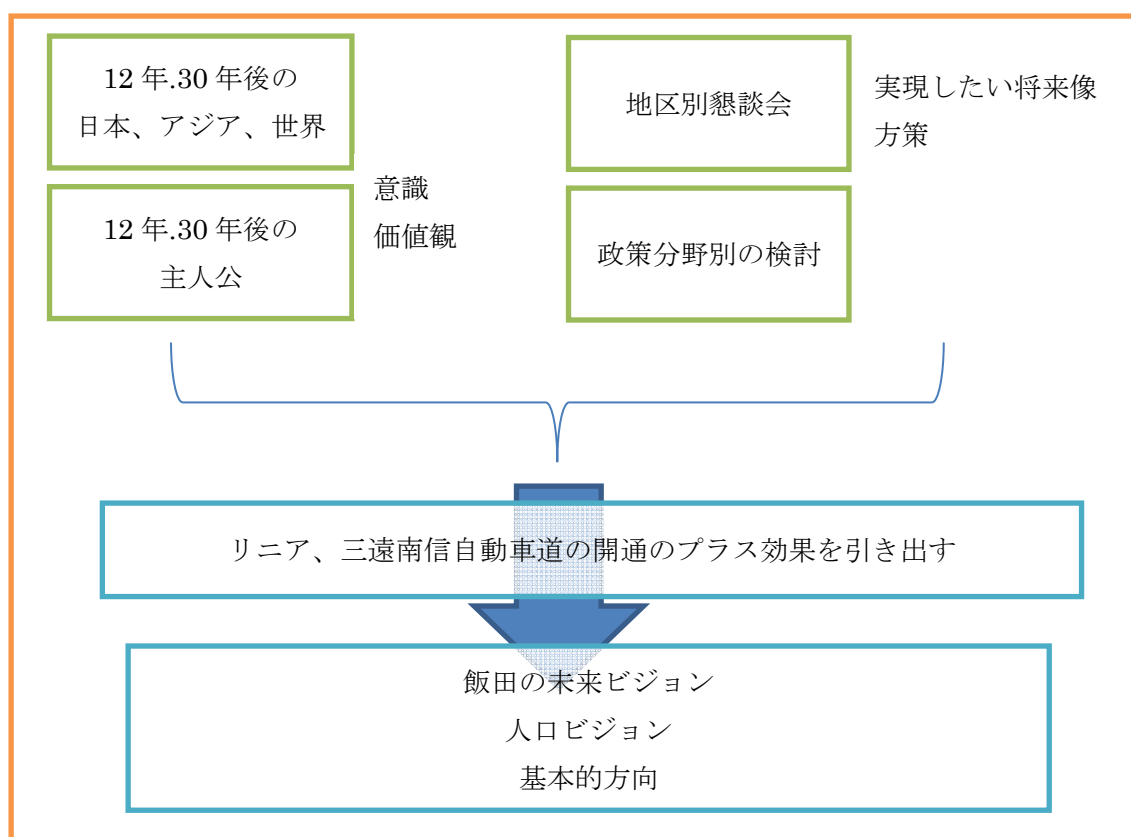
第2段階の検討でまとめられた飯田の理想的な未来や課題共有を踏まえて、さらに議論を進めるとともに、これまでの地区別懇談会や分野別懇談会の検討も合わせながら、未来ビジョン（原案）、人口ビジョン（原案）、基本的方向（原案）にまとめます。

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
未来デザイン会議			第1段階 ●第1回 ●第2回	第2段階 ●第3回 ●第4回	第3段階 ●第5回	●第6回		
地区別懇談会	第1段階			第2段階		第3段階		
分野別懇談会	第5次基本構想 後期基本計画振返り			第5次評価の調書確定				

(4) 平成27年度のスケジュール

回	開催時期	検討概要
第1回	9月下旬	リニア時代を見据えた地域の未来検討①
第2回	10月上旬	リニア時代を見据えた地域の未来検討②
第3回	10月下旬	リニア時代を見据えた地域の未来検討③
第4回	11月上旬	飯田市の内的変化の確認（人口推計、構成の変化など） 各地区、分野別の検討の中間報告と「リニア時代を見据えた地域の未来」の視点による検討
第5回	12月上旬	未来ビジョン（素案）、人口ビジョン（素案）、 基本的方向（素案）、総合戦略の検討
第6回	1月下旬	未来ビジョン（原案）、人口ビジョン（原案）、 基本的方向（原案）、総合戦略を確定

(5) 検討の具体的なイメージ



ア 第1段階

「リニア時代を見据えた地域の未来」を考え、将来の飯田市を取り巻く環境変化に関する認識をまとめます。

- ・12年後の日本、アジア、世界はどうなっているか、12年後の主人公となる世代の価値観、意識はどのようなになっているか。

(情勢) 飯田市をとりまく情勢はどうなるか。

	12年後 【平成29年度（2017年）】	30年後 【平成40年度（2028年）】
日本		
世界		
アジア		
飯田	リニア開通の翌年	

- ・リニア時代（12年後）に「世界、アジア、国内」の情勢や人々の価値観はどう変化するのか。
また、その時に「人、モノ、金などの流れ」はどうなるのか。

（価値観） 将来の世代間の価値観の違いと変化はどうか。

【平成29年度（2017年）】	12年後 【平成40年度（2028年）】	30年後 【平成58年度（2046年度）】
小学校 6 年生（11-12歳）	22歳－23歳	40歳－41歳
中学校 3 年生（14-15歳）	25歳－26歳	43歳－44歳
高校 3 年生（17-18歳）	28歳－29歳	46歳－47歳
20歳	31歳	49歳
30歳	41歳	59歳
40歳	51歳	69歳
50歳	61歳	79歳
60歳	71歳	89歳

- ・ リニア時代に向けた地域の資源、価値、強みはどうか

イ 第2段階

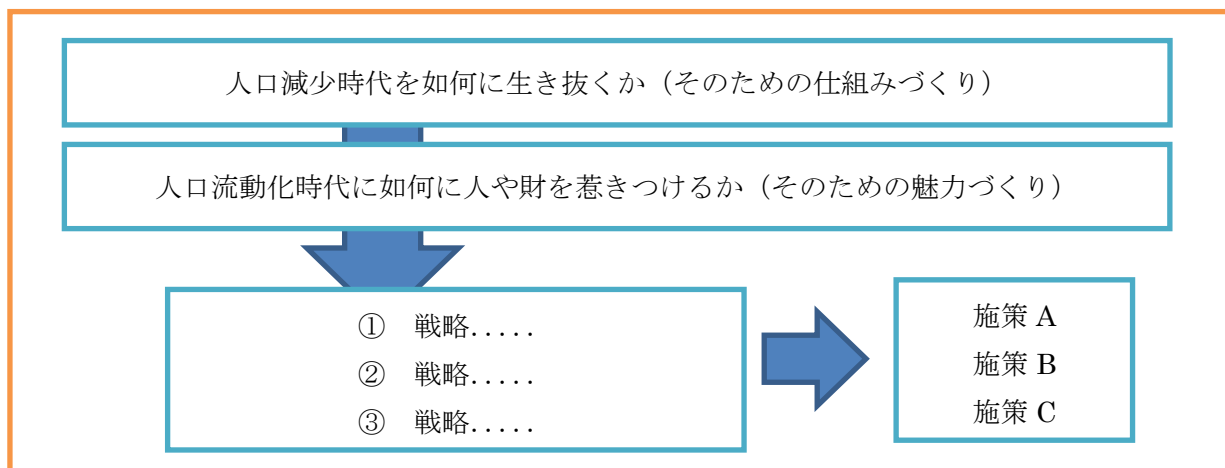
第1段階で検討された外部視点と各地区、分野別の検討からの内部視点とを整理し、飯田市の全体のものを描き出します。

- ・ 飯田市の人口推計などから将来の飯田市の内的変化を認識します。
- ・ 各地区の検討から、「各地区の理想的な未来」「目標人口」などを確認します。
- ・ 各分野の検討から、現在の基本構想基本計画の振返りの状況を確認します。

ウ 第3段階

アとイの検討を踏まえ、飯田市全体の未来ビジョン（原案）、人口ビジョン（原案）をまとめ、基本的方向（原案）を検討していきます。

- ・ これまでの検討や有識者からの提言、助言を踏まえてビジョン案や長期視点に立った基本的方向（戦略）を検討します。これとあわせて、地方版総合戦略についても検討します。



(6) 未来デザイン会議の構成及び外部アドバイザーの委嘱

未来デザイン会議は、産・官・学・金・労・言といわれる、産業経済界、大学、金融機関、労働団体などの代表者や地区別懇談会、分野別懇談会等の代表者からなる15～20人程度の委員構成とします。

また、未来デザイン会議の委員とは別に、外部アドバイザーとして地域を取り巻く重要な外部要因である「将来の世界、アジア、日本の変化」や田園回帰の動きなど「世代の価値観や意識の変化」などのテーマに関わる専門家を委嘱し、未来デザイン会議における全体検討を深めていき、地区、分野の議論や実践をさらに支援するものとします。

9月上旬までには未来デザイン会議の設置と外部アドバイザーの委嘱を行い、9月下旬からの検討を進めます。

6 飯田市版総合戦略の策定について

(1) 目的

飯田市版総合戦略は、分野別懇談会での検討の中から、人口減少と地域経済縮小の克服に向けて平成28年度から31年度までに重点的に取り組むものを抽出し「飯田市版総合戦略の案（たたき台）」を作成します。また、未来デザイン会議の場において、外部アドバイザーによる視点や地区別懇談会の中間報告などの要素を加えながら策定します。

(2) 分野別検討の取組内容

ア 検討の方法

(ア) 第1段階（8月～10月）

a 飯田市版総合戦略の案（たたき台）作成

飯田市では、これまでも地方創生に資するモデル的な取り組みを実践し、成果を挙げてきているため、地方版総合戦略の策定においては、これまでの成果を踏まえ、次の4つのテーマを重点検討課題として設定し、策定を進めます。

10月末までに施策ごとの重要業績評価指標（K P I）と具体的な事業を整理した飯田市版総合戦略の案（たたき台）を作成し、未来デザイン会議で検討します。

- ① 若者が帰って来られる産業をつくる（しごとづくり）
- ② 地方への新しい人の流れをつくる（人の流れ）
- ③ 若い世代が結婚・出産・子育ての希望をかなえる（結婚・出産・子育て）
- ④ 省エネ・再エネの取組による飯田らしい環境と経済の好循環のまちづくり（まちづくり）

※上記のほか、必要により新たな重点検討課題を追加することもあります。

b プロジェクトによる検討と意見交換等（体制）

4つのテーマに関係する政策分野ごとに庁内横断的なプロジェクトを組織し、企業・産業界（産）、行政機関（官）、高等教育機関（学）、金融機関（金）、労働団体（労）、メディア（言）が参画する場で意見聴取や議論を行うことにより飯田市版総合戦略の案（たたき台）を作成します。

(庁内横断的なプロジェクト)

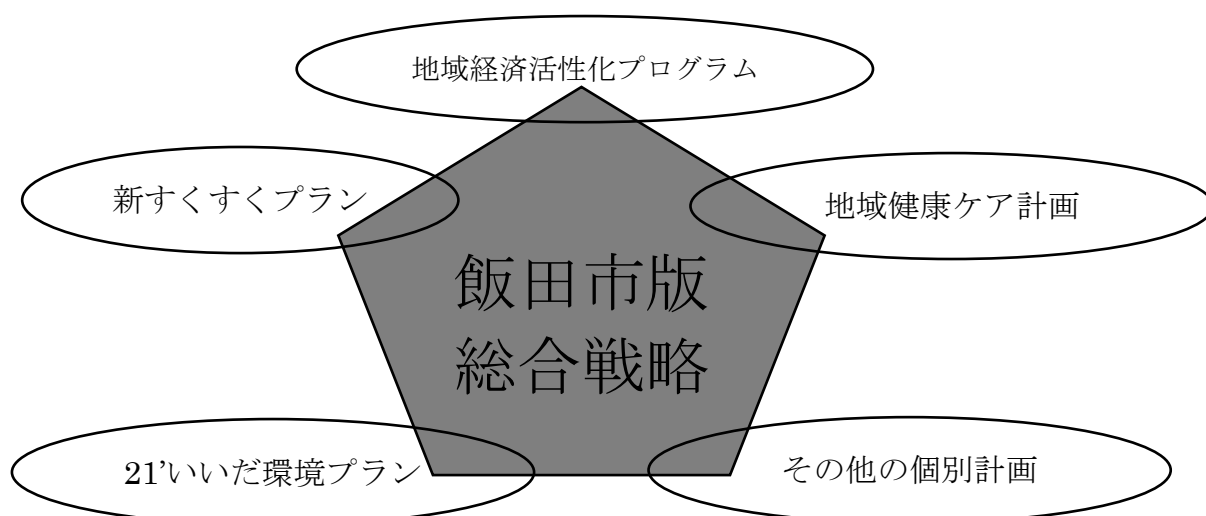
重点検討課題ごとプロジェクト	主管する課等	関係する課等
しごとづくりプロジェクト	産業振興課	産業経済部各課
ひとの流れプロジェクト	産業振興課	産業経済部各課、ムトスまちづくり推進課、地域計画課、生涯学習・スポーツ課
結婚・出産・子育てプロジェクト	子育て支援課	健康福祉部各課、市立病院
省エネ・再エネプロジェクト	環境モデル都市推進課	林務課、商業・市街地活性課、金融政策課、地域計画課

c 重点検討課題ごとのプロジェクトによる検討の視点

飯田市版総合戦略は、各種計画や当市の「特殊なシナリオ」であるリニア等の現状を踏まえ、「まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本的考え方及び政策5原則」を視野に入れて策定します。特に、圏域を越えた地域間連携や官民連携による先駆性のある事業を組み立てられるよう検討します。

(イメージ)

1 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本的な考え方 (1) 人口減少と地域経済縮小の克服 (2) まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立 2 「まち・ひと・しごと創生」政策5原則 (1) 自立性 (2) 将来性 (3) 地域性 (4) 直接性 (5) 結果重視 (PDCA)
--



その他の個別計画：飯田市観光振興ビジョン、子ども・子育て支援事業計画、地域福祉計画、教育振興基本計画、地育力連携システム推進計画など

(イ) 第2段階（11月～12月）

未来デザイン会議で飯田市版総合戦略の案を検討します。

(ウ) 第3段階（12月～1月）

未来デザイン会議で検討した飯田市版総合戦略の案について、議会・市民の意見聴取等を行う機会とします。

12月に、飯田市議会へ報告し、意見交換・意見聴取を行います。

1月に、パブリックコメントで市民の意見聴取を行います。

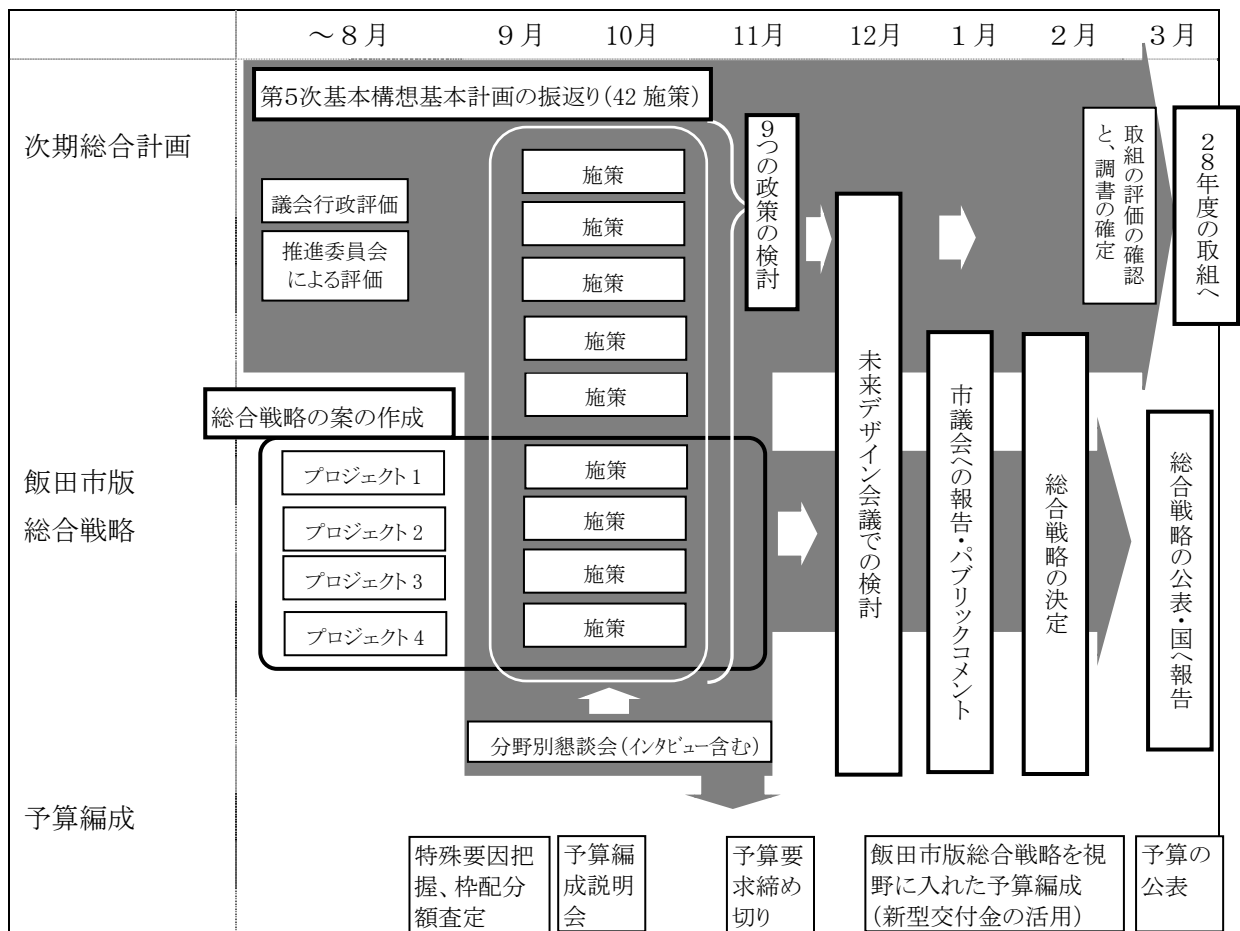
(エ) 第4段階（2月～3月）

未来デザイン会議、市民、議会の意見等を反映し、飯田市版総合戦略を決定し、国へ報告します。

飯田市版総合戦略に基づく事業について、新型交付金を財源とした当初予算要求・予算編成を行います。

※なお飯田市盤総合戦略は、策定を進めている次期総合計画との整合を図るため平成28年度末に改定を予定しています。

イ 平成27年度のスケジュール

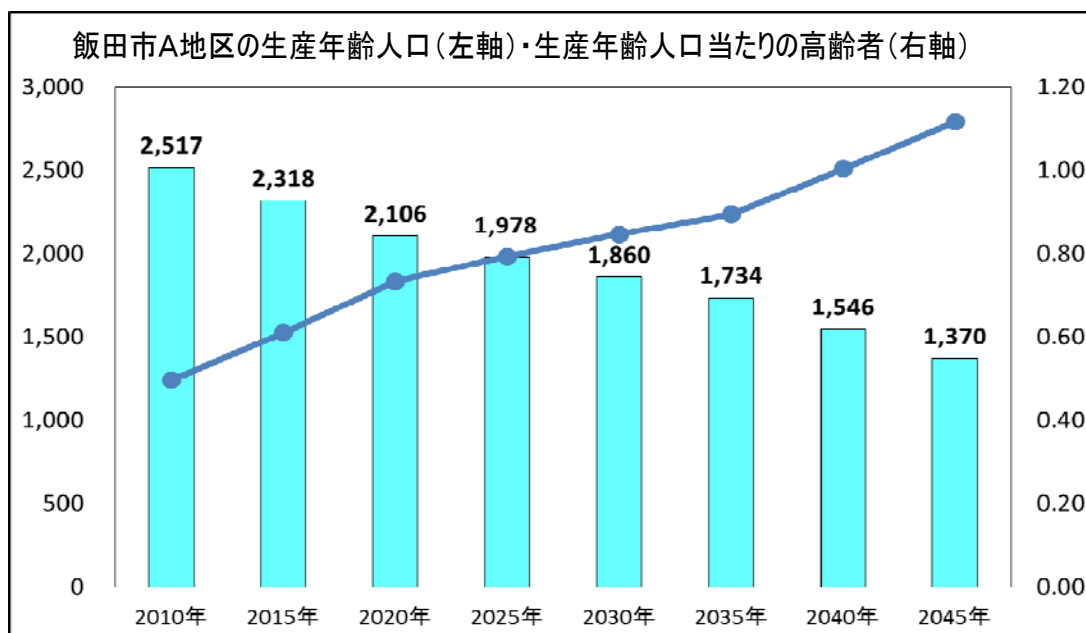
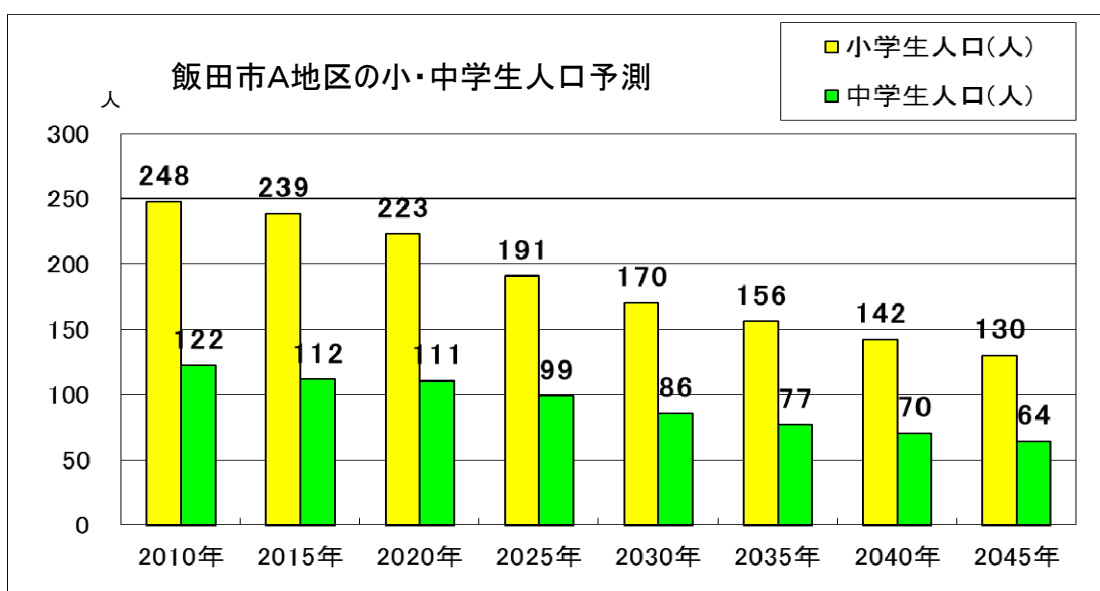
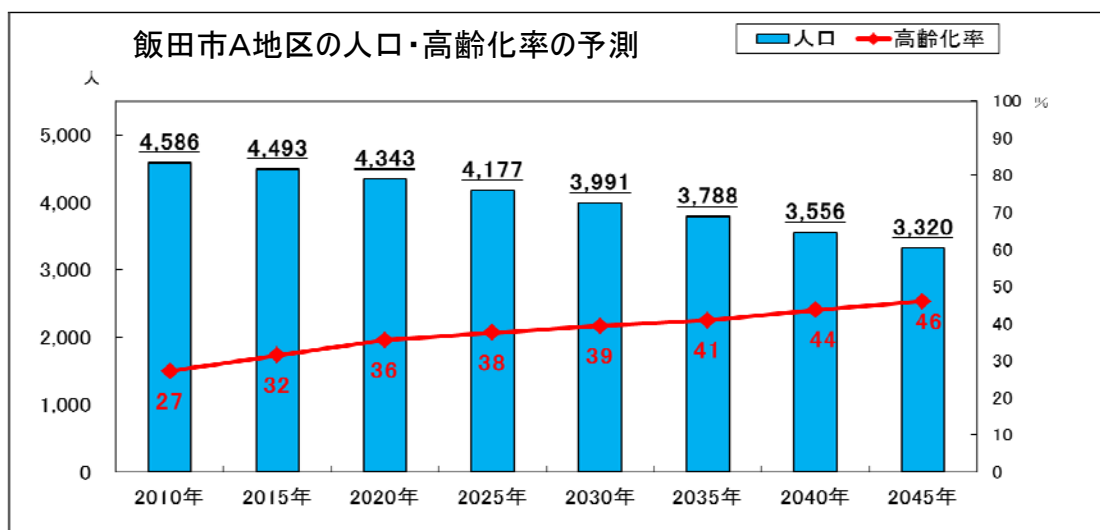


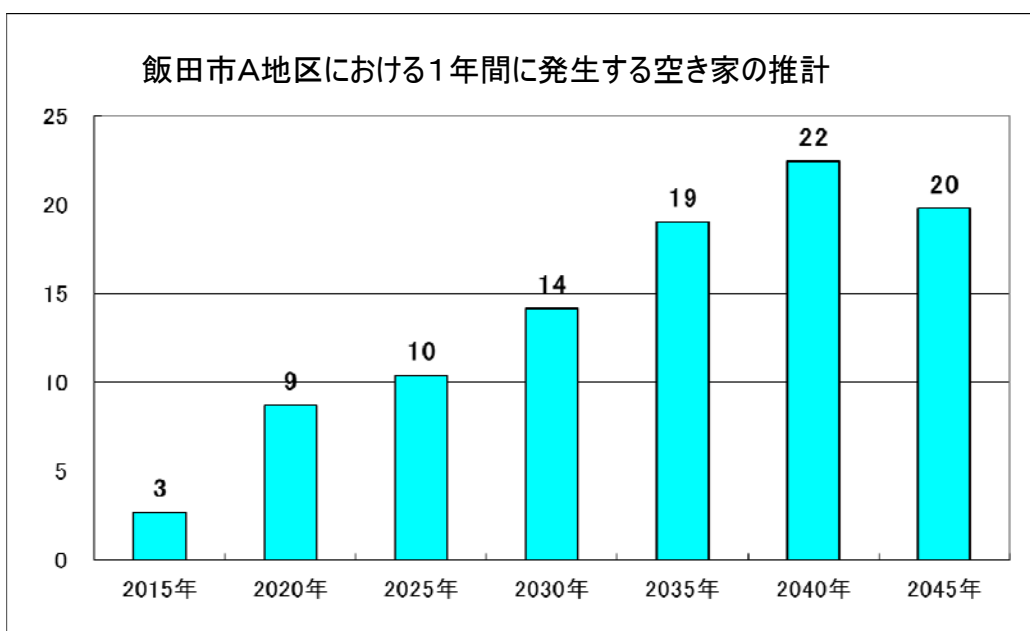
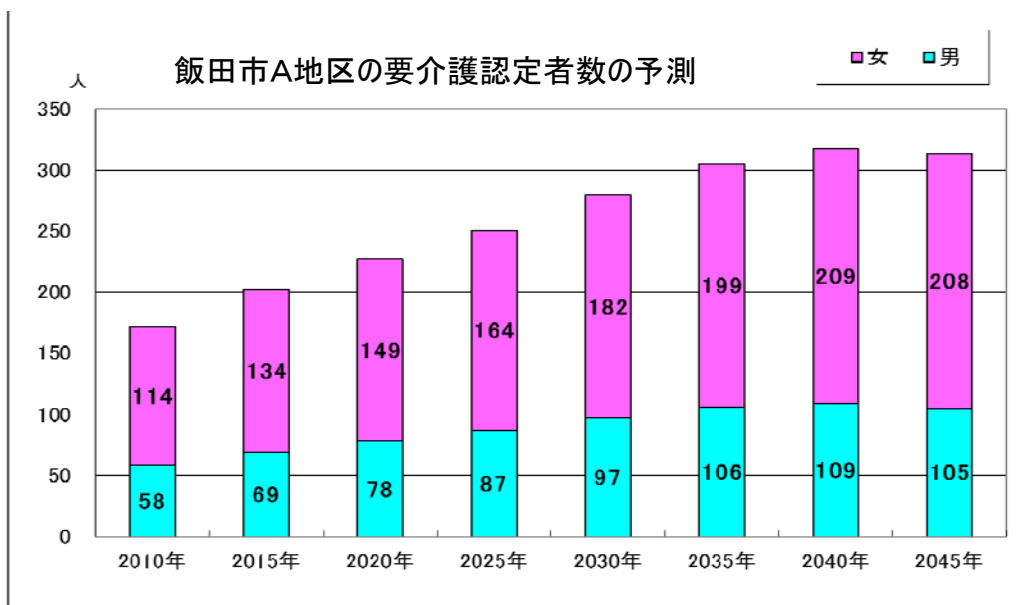
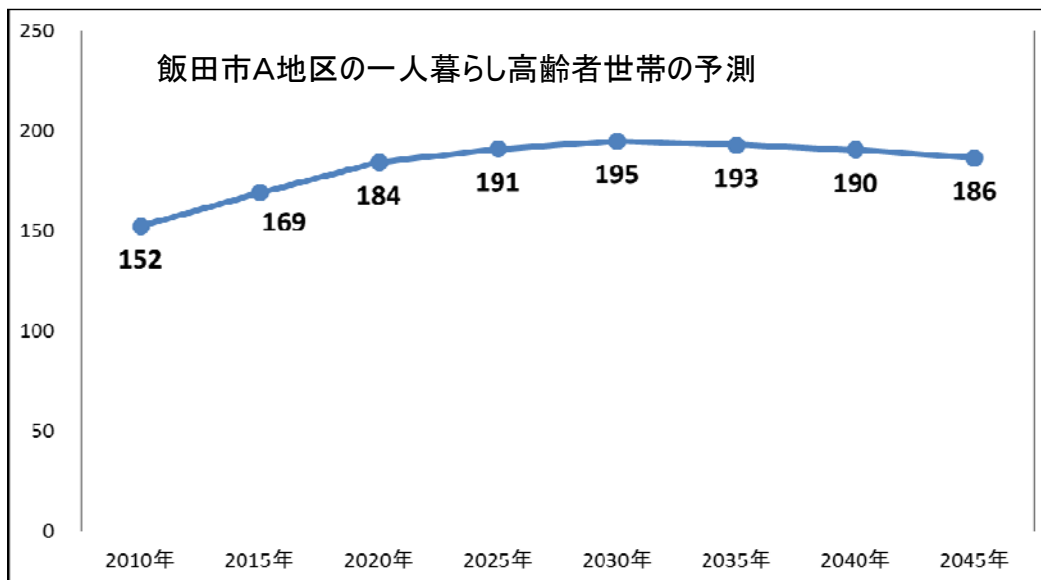
(3) 取組の状況

- 7月下旬
 - ・政策分野別の検討に向けた調整
 - ・政策分野別の検討の運営について、関係部署を中心に計画
- 8月～
 - ・プロジェクトの設置と検討(各分野の実情に応じた「懇談会（ヒアリングを含む。）」の開催)

参考資料

人口変動に伴う地域の姿の変化を、30年後まで地区ごとに推計することができます

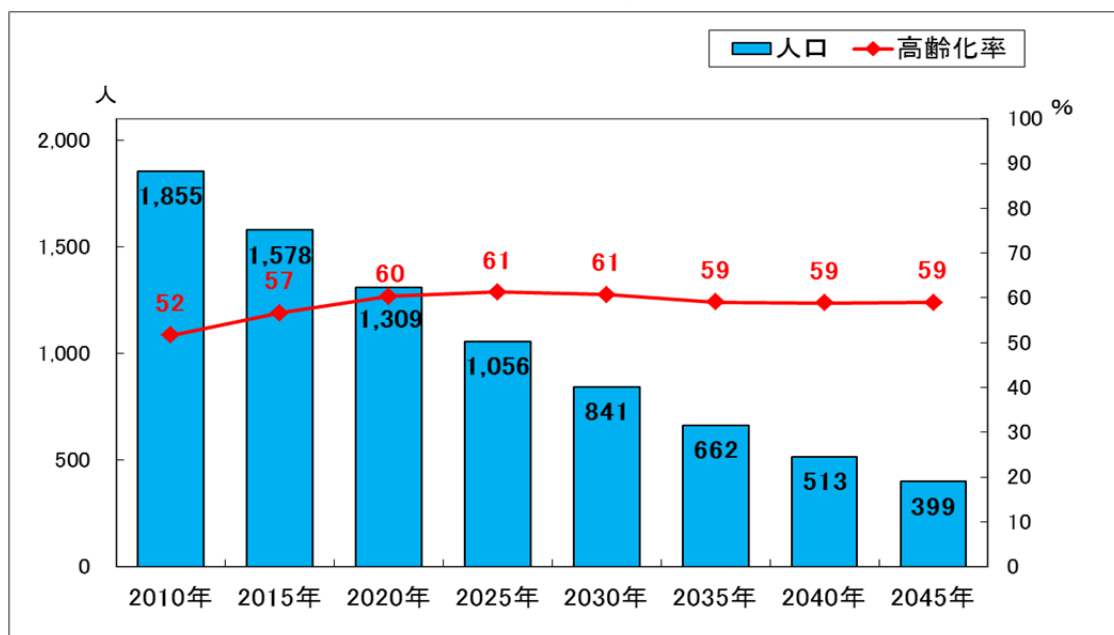




このプログラムは島根県中山間地域研究センター作成のものを活用しています。

未来ビジョン実現に向けた取組の効果を反映させた人口シナリオを予測することができます

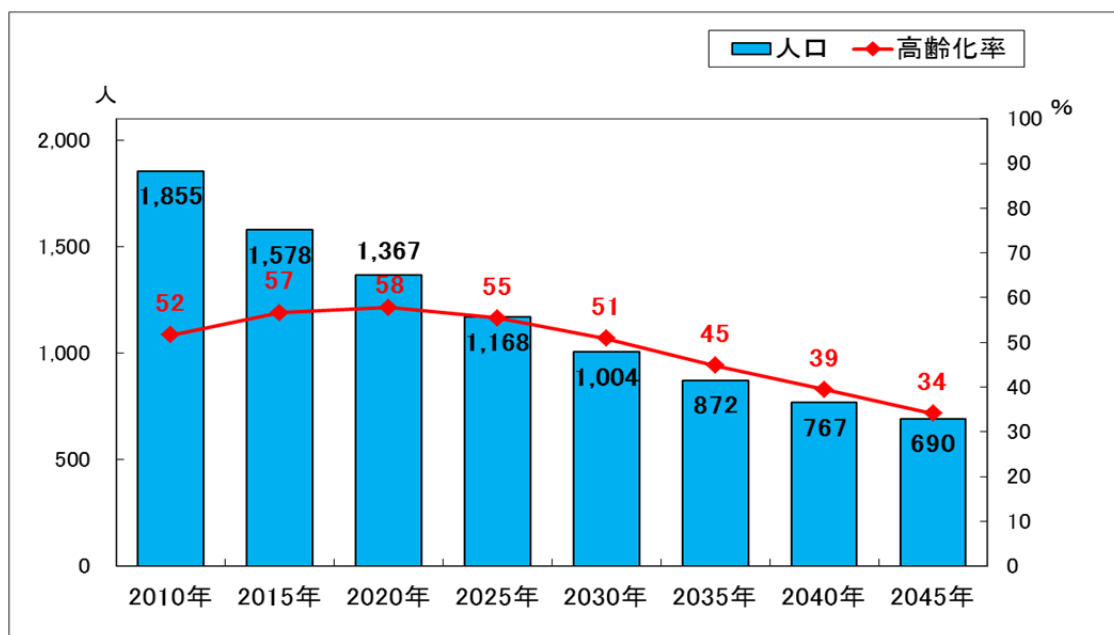
飯田市B地区の人口・高齢化率の予測（現行推移の場合）



B地区は、現行の人口推移を続けた場合、急速に人口減少が進行し、30年後の人口は現在の約4分の1になります。高齢化率は60%程度で安定します。

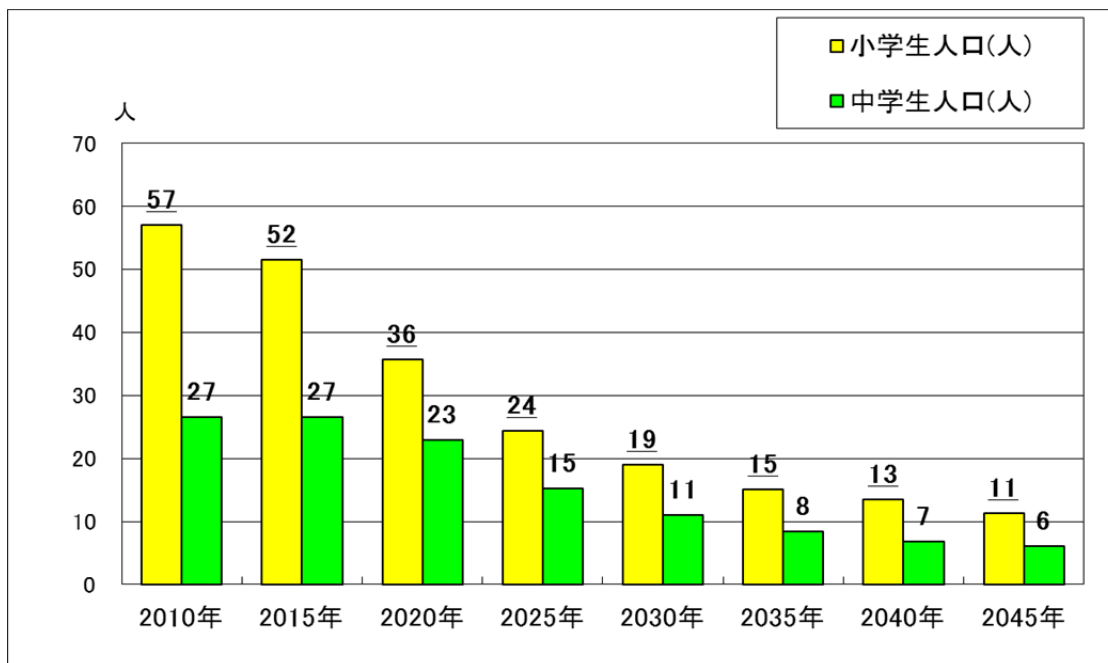
毎年2組の30代前半夫婦が4歳以下の子供を連れてU・Iターン
毎年2組の20代前半夫婦がU・Iターン

飯田市B地区の人口・高齢化率の予測（U・Iターンを実現した場合）



毎年4組のU・Iターンを実現することにより、人口減少の進行が緩やかになり、現行推移との比較では人口が300人増加します。高齢化率は2025年以降低下に転じ、30年後には34%になります。

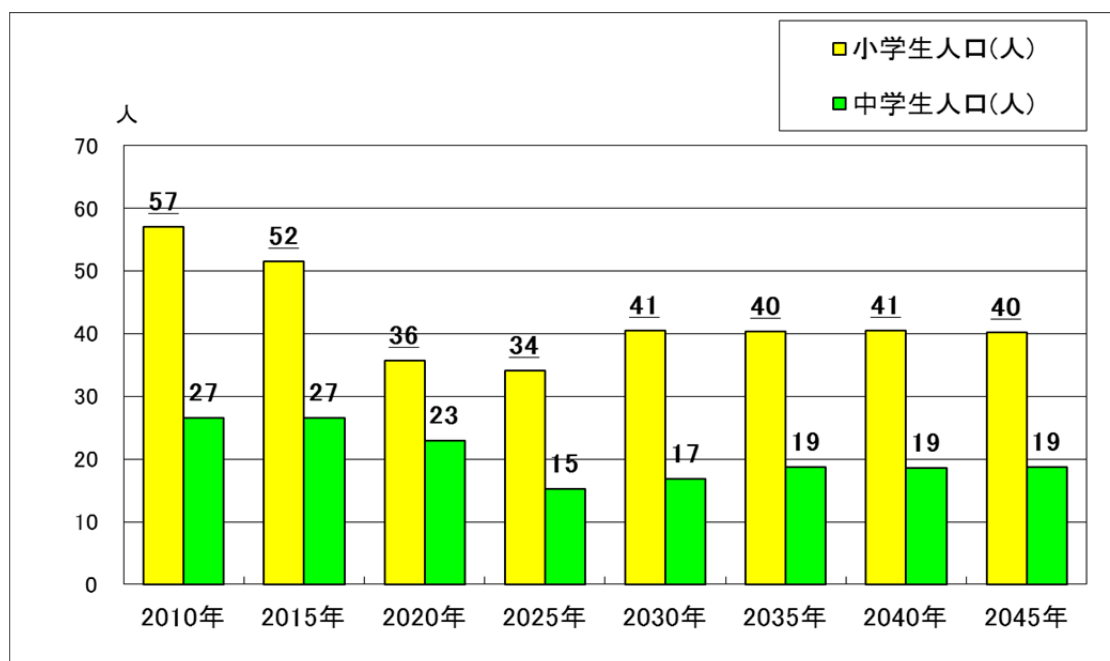
飯田市B地区の小中学生人口の予測(現行推移の場合)



現行の人口推移が続いた場合、A地区の小学生は急速に減少し、30年後の小中学生の人数は現在の5分の1になります。

毎年2組の30代前半夫婦が4歳以下の子供を連れてU・Iターン
毎年2組の20代前半夫婦がU・Iターン

飯田市B地区の小中学生人口の予測(U・Iターンを実現した場合)



毎年4組のU・Iターンを実現することにより、2030年以降は増加に転じ、2045年まで60人程度で安定します。



飯田市

「飯田市次期総合計画」の策定状況について

飯田市総合政策部企画課

平成 27 年 8 月